

— 宮城県内で最も早く開局した民間放送局である御社の沿革をご紹介ください。

弊社は、1952（昭和27）年5月1日に東北地方で初となるAMラジオ放送を開始し、約7年後の1959年4月1日にテレビ放送を開始しました。その後、東京オリンピックが開催された1964年10月1日にカラー放送を開始しますが、それに先駆けて1963年に、「Aサイト」と称し、現在の社屋が完成しています。2005年12月1日からは、テレビの地上デジタル放送を開始。東日本大震災発生で、当初の予定より約1年延長しましたが、アナログ放送を2012年3月31日をもって終了し、完全デジタル放送に移行しています。また、震災時にAMラジオの放送が途絶えた経験を生かし、2017年5月1日より、ワイドFM（FM補完放送）を開始しました。そして、時代が令和へと変わり、2019年におかげさまでテレビ60周年を迎えることができました。

昭和から平成、令和へと、時代を変えながらも宮城県にお住まいの皆さまに支えていただいていたことで、今日があると感謝しております。

— 御社は独自の番組編成をすることで知られています。自社制作のテレビ・ラジオ番組における特徴をお聞かせください。

通常、TBS系列では「あさチャン！」という番組を月曜から金曜日まで毎朝

## 独自の番組編成、TBC気象台など、ユニークな取り組みでお役に立つ情報を発信



文化庁芸術祭賞祝賀会で撮影された、俳優の千葉雄大氏（写真左）、脚本家・作家の内館牧子氏（写真右）との1枚。ドラマ「小さな神たちの祭り」は、テレビドラマ部門受賞4作品のうち、民間放送局で唯一の受賞となった。

放送しています。しかし弊社では7時30分ごろから、自社制作番組「ウォッチン！みやぎ」を放送するという独自編成を、同番組の前身である「グッデイ！みやぎ」から数えて約18年間、継続しています。朝の時間帯にローカルの独自編成を組んでいるのは宮城県では弊社だけですし、TBS系列全28局の中でも、唯一の取り組みです。

また、私どもは「TBC気象台」という、気象庁から予報業務許可事業者として認可を受けた私立気象台を有しています。気象庁が発表した天気予報を基にお伝えしている予報とは異なり、TBC気象台の気象予報士が予測し、独自予報を自分たちで伝えているところが、他局の天気予報とは決定的に異なります。それを生かした番組が「ウォッチン！みやぎ」であり、弊社の特徴をよく表している番組となっています。

またもう一つ特徴的な番組として、毎週金曜日の深夜に放送している「サンドのぼんやり〜ぬTV」が挙げられます。これは2008年にサンドウィッチマンの二人がM-1グランプリで優勝したのを契機に、彼らの初レギュラー番組ということで、出身地であるこの宮城県で番組を始めたという経緯があります。実は9年前の2011年3月11日、東日本大震災当日は、この「サンドのぼんやり〜ぬTV」のロケで、私どもの制作スタッフおよびアナウンサーと共に、サンドウィッチマンのお二人も気仙沼で被災されております。お二人が、現在も「東北魂」の名の下に、被災地を元気にする活動を続けているのは、ご承知の通りですが、その中には、私どもの「サンドのぼんやり〜ぬTV」という番組も含まれています。そこから、サンドウィッチマンのお二人と共に、震災復興に対して、思いを一つに番組制作をさせていただいております。

— 昨年11月に放送したドラマ「小さな神たちの祭り」が、令和元年度の文化庁芸術祭テレビドラマ部門において、「優秀賞」を受賞されました。制作にあたり、どのような点に注力されましたか。

実は、このドラマは、弊社のテレビ60周年記念番組として制作した番組なのです。東日本大震災を経験した私たちからこそ、震災をテーマにするという共通の強い意識を持って、1997年以来22年ぶりとなるドラマの制作を進めていきました。制作統括は弊社社員が務め、脚本は東北大学大学院文学研究科を修了されている内館牧子先生にお願いしました。内館先生ご自身も、「震災に対して抱き続けてきた思いを表現したい。被災地の放送局である東北放送でなければ、つくることのできないものにした」とおっしゃってください、ご快諾いただきました。



### 東北放送株式会社 代表取締役社長

#### プロフィール

1962年生まれ。仙台市出身。仙台第一高等学校、中央大学理工学部卒業。1985年（株）電通入社、その後、（株）河北新報社専務取締役、東北海外旅行（株）代表取締役社長等を歴任し、2007年東北放送（株）専務取締役に就任。2010年4月より現職。趣味はスポーツ観戦、芸術鑑賞。座右の銘は、はやく、ただしく、おもしろく。

#### 【概要】

### 東北放送株式会社

代表者 一力 敦彦  
開局 1952年5月1日  
テレビ放送開始 1959年4月1日  
従業員数 163人（男121人、女42人）※2020年4月現在  
事業内容 基幹放送事業（テレビ・ラジオ）  
本社所在地 仙台市太白区八木山香澄町26番1号  
TEL.022-229-1111（代）  
H P http://www.tbc-sendai.co.jp

キャストینگも、地元出身の方にお願  
いしたいという思いがけない、主演は多  
賀城市出身の人気俳優である、千葉雄大  
さんです。また、弊社との関わりも深い、  
仙台市出身のサンドウィッチマンのお二  
人にも、ドラマ後半の象徴的な場面にご  
出演いただきました。お忙しい中でも、ス  
ケジュールをご調整いただけたことは幸  
いでしたね。

またこのドラマは、昨年11月に宮城  
県と福島県でオンエアされたから、再放  
送のご要望や系列局から放送のお申し  
込みをいただき、今日までに弊社を含む  
22局で放送されました。撮影地のほとん

どが巨理町を中心とした、全面ロケでの  
制作でしたので、宮城県の現状も全国に  
お伝えできたのではないかと思います。  
宮城県の放送局が、この宮城県で、宮城  
県のためのドラマをつくり、震災から8年  
目に、被災した方々やその家族、友人、大  
切な人を亡くされた皆さんなどに対して  
「震災を風化させない」というメッセージ  
を少しでもお伝えできていれば、制作し  
た意味があったのではないかと考えてい  
ます。

### ― 新社屋の特徴を教えてください。

1963年に完成した現在の社屋は、  
東日本大震災、そして約40年前の197  
8年6月に発生した宮城県沖地震と、大  
きな地震を2度経験しています。これら  
によって受けたダメージと経年劣化によ  
り、今後の耐震性にも不安があったこと  
から、「従業員の安全確保」と「放送の継  
続」という二つの使命を果たすべく、建設  
計画を策定しました。そして今年1月に、  
仙台市の自然的景観を守るという風  
致地区である八木山周辺の風景にマッチ  
させながらも、東日本大震災時の経験を



生かして、電気系統の増設や雨水をため  
る設備等、災害時にも通常稼働が可能と  
なるように各設備を強化した新社屋「杜  
の中の放送局」が完成しました。

### ― 東日本大震災時、御社のテレビ・ラジオ放送はどのような状況だったのですか。

14時46分の地震発生直後から、3月  
22日の朝まで、TBCラジオは約256  
時間、CMを挟まずに八木山から特別番  
組の放送を継続しました。後日、この放  
送を聞いてくださった方から「真っ暗な

避難所で、とても心細い思いをしている  
とき、1台しかないラジオから、いつもテ  
レビやラジオで聞いているTBCのアナウ  
ンサーの方の声が流れてきて、すごくほっ  
としました」といった感想がたくさん寄  
せられました。256時間、ラジオ放送を  
継続するのは並大抵のことではありませ  
んでしたが、そんな苦勞も吹き飛ばよう  
な言葉を頂戴し、感無量でした。弊社は  
テレビとラジオ、両方の放送を担っていま  
すので、兼営社である当社の強みが、いく  
らかでも被災された方のお役に立ったの  
であれば幸いです。

## Closeup Interview

# テレビとラジオ、両放送を担う 兼営社だからできることを これからも会社の強みに



ラジオは災害時の「ファースト・インフ  
ォーマー(第一情報提供者)」です。近年、  
スマートフォン等の普及もあり、若者を  
中心にテレビやラジオ離れが進み、特に  
生活の中でラジオを使う機会が減ってい  
るかと思いますが、仮にお子さんが1人  
で家にいるときでも、乾電池で聞くこと  
ができますから、ラジオの聞き方はぜひ  
覚えて欲しいと思っています。

### ― 今年1月からロゴ・スローガンが刷新されました。これらに込められた思いをお聞かせください。

いままでアルファベットの大文字で「T

BC」と表記していたロゴは、小文字で「tbc」とし、スローガンを「はやく、ただしく、おもしろく。」としました。

このロゴには、宮城の皆さまにとつて、いつも身近な存在でありたい、また小さいお子さんにも分かりやすいものにしようという思いを込めました。また、テレビ放送開始時から、私どもは「1チャンネル」の放送局です。民放で1チャンネルを有する放送局は少なく、これは弊社の財産でもありますので、「tbc」の「t」に「1」を重ねました。

そして、スローガンの「はやく、ただしく、おもしろく。」には、放送局の原点で

ある「速報性」、「正確性」、「娯楽性」の  
三つの要素を大切に、皆さまにお伝  
えしていく決意を込めました。特に正確  
性に関しては、SNS全盛のいまだから  
こそ、確かな情報をお届けすることに強  
い使命を感じています。

### ― 最後に、今後の展望や目標についてお聞かせください。

現在、若い年代の方々に、ラジオを聴い  
ていただこうと、弊社が所属する日本民  
間放送連盟では、インターネットでラジ  
オを聞くことができる「Radio(ラ  
ジコ)」と、「FM放送」の両方が受信でき  
るラジオチューナーを内蔵したスマート  
フォン「ラジスマ」の普及を進めていま  
す。この製品は、「通信が途絶えてもラジ  
オが受信できるので、災害時でも使え  
る」、「高品質音源で音の遅延がない」、  
「省電力」といったメリットが挙げられま  
す。常日頃から、弊社が放送している楽  
天イーグルスの試合中継などを聞いて使  
い慣れておき、万が一の際にも、正確な情  
報を遅延なく収集できるようにしてい  
たどくが理想だと考えています。

「1チャンネル」の弊社は、「地域1番」  
を掲げ、県民の皆さまに1番親しまれ、信  
頼される地元放送局を今後も目指して  
いきます。弊社が放送する番組の中で、お  
気に入りの番組を一つでも多く見つけて、  
視聴していただければうれしいです。

# tbc

1月に竣工した新社屋の外観(写真上)。八木山の豊かな自然に囲まれながらも高い安全性を持ち、災害時でも放送の継続が可能。  
下は、わかりやすさ、親しみやすさを重視してつくられた、東北放送の新しいロゴ。色はこれまでのコーポレートカラーを受け継ぎ、ブルーを採用した。

より良い環境をめざす。

青葉環境保全 **AOBA**  
〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)